

千代神楽三連勝

紙相撲新聞

第160回本場所
初日～三日目

編集・発行
日本紙相撲協会

新関脇の鉄甲四季嶋も3勝

期待の綱乃花2敗、若ノ嶋3敗

〔第百六十回本場所初日～三日目〕

30度を超える暑さから一気に秋めいた涼しさへ変わった9月23日に第160回本場所初日が幕を開けた。今場所は先場所に横綱として初めての優勝を全勝で飾った千代鈴が連覇に挑む。これを阻止せんとするのが、先場所途中休場した横綱若ノ嶋と大関大神楽。

今場所は関脇小結がほぼ総入れ替わり、関脇は鉄甲、綱乃花、四季嶋と3人全員が新関脇というフレッシュな顔触れとなった。小結には出羽翼、白閃光という実力者が返り咲き、元大関



↑千代鈴は今場所も絶好調。白閃、出羽と撃破し、三日目も鬼嶽を圧倒し、初日から3連勝。先場所から14連勝だ。

↓若ノ嶋は精彩なく、三日目も新鋭の西神門に寄り負けて3連敗。無念の2場所連続休場となった。



また、先場所10勝1敗で十両優勝し、1場所所で十両を通過した鹿麒麟がただ一人新入幕となった。残念ながら横綱春ノ翔は左膝関節炎悪化により休場となった。

本場所は三日目まで終わり、横綱千代鈴、大関大神楽、関脇鉄甲と四季嶋平幕の夢ノ花、剛勇山の6人が3連勝とした。再起を賭けた横綱若ノ嶋はいどころなく3連敗を喫し、四日目から休場することになった。

横綱3場所目ながら、早くも大横綱の風格を備えた感のある千代鈴。初土俵以来の勝敗は110勝21敗と0・840という高い勝率を誇る。

先場所相手手を圧倒する隙のない横綱相撲で全勝優勝を飾り、今場所も優勝の大本命。

初日は小結白閃光、二日目は小結出羽翼、三日目の鬼ヶ嶽とまったく相撲を取らせず、すべて正面土俵に寄り切る圧巻の相撲で3連勝を飾った。

また、先場所からの連勝を14と伸ばして、連勝記録にも注目が集まる。

先々場所、3横綱1大関による総当たりでの優勝争いを制して4度目の優勝を飾った横綱若ノ嶋だったが、先場所をまったく精彩を欠いて途中休場した。

今場所に再起を賭けたが、初日に苦手の小結出羽翼に押し倒されると、二日目は小結白閃光にのど輪から左を差され土俵を回って粘ったものの寄り切られると、三日目には初顔の西神門には左を差されて寄り切られる完敗で3連敗となった。

場所前の調整は順調だっただけに師匠の錦風親方も大きなショックを受けていた。「もう少し本場所を取らせて調子をみたい」という気持ちもあつたようだが、部屋へ戻ってから若ノ嶋と話し合った末、「これ以上、横綱として不甲斐ない相撲は取れない」として休場を決意した。



出羽翼●(寄り切り)○千代鈴



千代鈴○(寄り切り)●白閃光



若ノ嶋○(押し倒し)○出羽翼



若ノ嶋●(寄り切り)○白閃光

大関大神楽は場所前に稽古に加えて筋力トレーニングを織り込み体重を増やして本場所に臨んだ。「体重が増えて、どうだろうか?」と注目された初日は成長著しい西神門戦。

これまでの大神楽が2勝と分がいいが、勝負はお互いが引き合う形となり際どい判定と落下としての辛くも引き落として白星発進した。

初日の相撲から体重増の不安がよぎったが、二日目の鬼ヶ嶽、小結出羽翼には力強い相撲で勝ってその不安を一蹴した。「今場所の大神楽はやるぞ!」というのが3日間の相撲を見ての印象だった。



大神楽○(寄り切り)●鬼ヶ嶽



出羽翼●(寄り切り)○大神楽



大神楽○(引き落し)●西神門

